

2025年12月の総評に代えて

○林 桂 ○

● さ い う ● ( 石 川 県 20 歳 )

月 光  
は  
白 磁 の に お い  
身 ひ と つ で 彼 岸 の 銀 河 鉄 道 め ざ す

【評】「銀河鉄道の夜」を踏まえながら、自身の美しいイメージを描き出している。「月光／は／白磁のにおい」の纖細な感覚が光る。

● 夕 見 り ら ● ( 東 京 都 25 歳 )

冷 め る ま で  
レ ン ゲ に つ く る ミ ニ ラ ー メ ン  
わ た し と 暮 ら す の は む ず か し い

【評】「わたしと暮らすのはむずかしい」のは、誰彼ではなく、自分自身なのだろう。ラーメンの食べ方のひとつをとっても、自分自身との折り合いがなかなかつかないと感じているようだ。

● 塩見 佯 ● (沖縄県 46歳)

### 睡眠時無花果症候群

【評】「睡眠時無呼吸症候群」のパロディイ  
だが、「無呼吸」を「無花果」に変換する、  
その意外性と諧謔性に思わず立ち止まら  
される。いったいどんな症状を想い描け  
ばよいのか。

● 徒波新 ● (群馬県 20歳)

うかぶくらげただみるだけ  
うたたねしたときにみたゆめ

【評】意味は分からずに、ただ映像だけが  
記憶に残る夢がある。浮遊するクラゲに  
は物語性も何も感じられない夢だったの  
だろう。しかし、その映像はありありと残  
り消えない。

● 春蜜柑 ● (群馬県 16歳)

堤防を歩く風光ついてても

【評】「いても」の逆接の言い止しの結び

が、謎めいている。風渡りのよい明るい堤防を歩く。「歩く」と「風光る」は順接の親和性があるように感じられる。しかし、ここでは逆接。ここにどんな心のドラマの投影を想い描けばよいのだろうか。

● 彩燈 琴璃 ● ( 東京都 18 歳 )

真昼間に茹で大根が透けていく  
また占いは少し当たって

【評】茹でると白から透明になってゆく大根。そのしばしの間に「また占いは少し当たって」と思っている。「少し」が、占いの本質をうまく言い当てている。当たるというよりは、某かの思いあたりを誘発するのが、占いの言葉であろう。当たっていないところがあっても、当たっていると思うところに、思いは吸い寄せられて、「少し当たって」感じられている。

● 古倉 凪紗 ● ( 広島県 34 歳 )

かなしみはいつも涙になりきれず  
海になりたい日の塩むすび

【評】涙を流すまでのかなしみは、希れであろう。しかし、涙を流さない今までのかな

しみは、日常茶飯かもしれない。ある意味でかなしみの本質を言い当てている。「海になりたい日の塩むすび」は、具体的な事象に対するものというよりは、茫洋とした悲しみの気分によるものと言っているのだろう。ゆえこそ日常的な心の有り様もあるのだろう。

● 小牧 悠人 ● (京都府 22歳)

お湯が沸くまで猫に顔をうずめる

【評】「猫に顔をうずめる」は、愛猫家の「猫吸い」の場面だろう。コーヒーブレイクのためのお湯を沸かす間に猫と遊ぶ。大切な癒やしの時間だ。

● 猪山鉱一 ● (神奈川県 23歳)

魚には桜が寄生しています

【評】「桜鯛」のように桜の季節に桜色に発色するさまを、このように表現したとも思えるが、「寄生」の言葉が強い。比喩的な表現ととるよりも、このまま現実を超えた表現と受け止める方が面白いだろう。

● 上原一樹 ●（群馬県 19歳）

### 初夏の潮の匂いの町役場

【評】海沿いの町の役場。夏を迎えると、潮の匂いが強くなり、役場まで包み込む。役場は、海岸線近くにはないだろう。すこし離れた高台にあるイメージだ。それゆえに、「初夏の潮の匂い」の強さが感じられる。「町役場」の場面設定が効いている。